



一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159  
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

## 感謝・一の宮の神々

平成13年12月1日東京で初めて故入江孝一郎(前巡拝会代表世話人)先生にお目にかかりその時のお話に「今の日本をどう思われますか、どこかおかしいのではないのでしょうか」「日本を良くするには、日本人を良くしなければよくならないそれには日本精神の原点、全国の神社特に一の宮に参拝しその神氣にふれて、心を清く、直き心になる事から始めねば」と云はれ、まったく、その通りだと得心致しました。以後、諸先生、先輩方に導かれ今も巡拝をさせて頂いております。

平成15年4月から有志の方々と「岡山発全国一の宮巡拝」を立ち上げ毎月1回、1班、2班、3班に編成した方々と近くはマイカーで日帰り、遠くは交通機関を使って、約2年で完拝させて頂きました。

「気をつけて全国の巡拝をして下さい」と励ましの言葉を掛けて下さった心やさしい宮司さん。境内に居させて頂くだけで心がいやされたお宮さん。「ようこそお参りで」「どちらからですか」と親しく声を掛けて下さった神職の方々、お陰様で巡拝者一同皆それぞれに毎回感銘を受けお宮さんがぐっと身近に感じられるようになりました。

巡拝がなぜ、どうして大切なのかと考えますに

●現在の自分が有るのは・・・生命は大自然＝神様から御預りしており肉体は親が生んでくれて育てて

下さり、毎日生きて行けるのは、太陽、空気、水、土、山、川、海、その他動物、植物、鉱物など、ありとあらゆる物にも恵まれている地球に生まれ、宇宙の規則正しい営みの恩恵によって生かされているのだと思います。

●日本の国土、風土には・・・幸福な事に自然と共に生き、ご祖先と共に生き、人々と共に生きる道、即ち、神道があり、何事も神の恵みとして神に感謝

し生活をして行く心の営みが日常生活全般に永く古代より今日まで受けつがれている事だと思います。

●一の宮は日本の旧国、全国各地に存在・・・即ち、神の国、日本神道の中にありその大本は伊勢の神宮で、諸国各地の一の宮はその出先のようなものです。よって、巡拝

し、神恩感謝、報恩の誠を尽くす事は、日本人として、ごくあたり前の事だと思います。

一の宮巡拝の意義は・・・人としての贖罪しよくざいの一つの方法で、美しく、価値の有る事で、人間として我々人生の目標であるとも言える。各人が品性の向上にもつながる道で何物、何事にも変えがたい尊い事ではないのでしょうか。

一の宮巡拝会 中国・四国ブロック世話人 木下雅晴



森羅万象の恵み

(撮・塩)

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

### 一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159

### 一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内  
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135

## 一の宮巡拝会 会員の店場

広場の頁は会員の皆様と創り上げて行きたいページです。今回は第62回神宮式年遷宮を迎える御敷地(手前)と内宮御正宮を紹介させて頂きました。

日本人として『祈りの魂の原点』と仰ぐ  
内宮御本殿。(撮・塩)



神宮・興玉・宮比の磐座 重儀前は必ず興玉神祭『御卜の儀』が執り行われる。平成20年5月中旬くらいまで拝する事ができます。(撮・塩)

## ◆◆◆ 巡拝の声 ◆◆◆

### 五十の手習い

(愛知県 大谷武司)

私は、皇學館大學の渡辺教授が講師をされている『国史大系「日本書紀」』という中日新聞社の文化教室に通っている。日本史年表等を参考図書として持ち込み、自分なりの歴史観で講座解説を聴いている。講座を受けて何が一番楽しみかと言えば、日本書紀の朗読説明を受けるよりも、説明の間の脱線した関連話である。食品期限の偽装事件の時などは、赤福の創業から記事にはならなかった内情の事、時事の記事に出来なかった部分を知る事も出来た。明治の時代までの伊勢神宮の内宮の社家は荒木田家、外宮の社家は度会家、住吉大社は津守家等、なかなか知識として解らなかつた事が脱線話の中で身につく。脱線話の中には、出雲大社や日前宮(和歌山県)、阿蘇神社等の一の宮神社の解説もあり非常に役立つ脱線話で勉強になる。現在は後編の敏達天皇十四年で、次回からは第二十一卷用明天皇となる。この頃までは伽耶諸国(任那)を救済しようとする当時の政権の姿勢が読み取れる。朝鮮利権の失墜(白村江の戦い)、物部氏や大伴氏から蘇我氏への権力の移行もこの時期である。

日本書紀の内容には、当時の朝鮮半島の事細かな事情まで記されている。

朝鮮半島の歴史書に記録されていることが、日本書紀には更に細部に亘り記録されているのである。

先ず、伽耶諸国が滅び、百濟、高句麗と滅亡、朝鮮半島は新羅により統一国家となる。その度に朝鮮半島から身分の高い者、技術を持った者が日本列島に渡る。

私は日本と朝鮮の関係は、朝鮮半島に残った民族と朝鮮半島からの渡来民族の関係が非常に影響していると考える。

無論、日本には、陸続きの時代の古き時代の民、南洋から渡来した民族等様々な民族が様々な文化を運び、現在の日本文化が生まれたと思われる。

古代の中心は何故に出雲だったのか？

当時の船舶技術では、北九州を目指しても日本海流に流されて出雲辺りにまで流されたのでは？

九州は恐らく、朝鮮半島からの民や南洋からの民が競い合っていたのだろうか？

諸国の一の宮神社を完拝して日本書紀を学ぶと、更にこの国の歴史を理解できるような気がする。

小説「全國一の宮」調元祖

# 橘 三喜 (第三十三回)

郡 順史・作 梶 鮎太・画

三喜は立ち止まると、平之進を参道をはずした個所にいざない、向いあつた。

参道の中央を歩むのは神様と勅使、案内をする所の神官のみで、普通の参拝者は遠慮して端を歩む、とされている。まして立話をしようというので、参道をはずしたわけである。

柔かい春の朝の陽差しが文字通りさんさんと二人にそそいでいた。

三喜は、緊張し切って眼をしばいに見開き唇を噛みしめている平之進へ、平常と変わらぬ口調と表情で尋ねた。

「願いと何かかな？」

「あの、拙者、色々考えました。そして、神道と國学を、もう一度はじめより、しっかり勉強したいと考えました」

平之進は、自分の緊張を自分の内でゆるめようと考えて普段どおり喋っているつもりなのであろうが、それがかえって緊張を増幅させてか、変に力のこもった声音になって答えた、というより訴えた。

「神道の学と國学とを、な。で」

「決して先生のご命令をなおざりには致しません。一所懸命ご言い付け通り働きます。で、ここに壱岐にいる間、いえ、先生のお供をして全國を巡拝しております間も、勉強し、學問を少しでも身につけたい、そう思ったのでございます。ぜひお許したまわりたく存じます。あの——」

「何かかな」

「不遜でございましょうか」

三喜は不意に笑いがこみ上げて来て、つい声に出して「はっはっは」と笑ってしまった。平之進の心根がこよなく可愛いくいじらしいと感じ、

それが喜びとなって笑いに転化したのである。

だが、すぐに平之進に誤解されてはならぬと思い、「それは善い着眼じゃ、天晴れ」

何度も頷いた。そして、

「儂も実は寸暇を盗んで勉強したものだ。机前に座して書を読んだ記憶などほとんど無い。それでも足らぬ。勉強は一生ものだから」

三喜はふと言葉を切った。

実は手解きをしてくれる師は誰がよいか、喋りながら考えていたのである。弟子は師による、という言葉がある通り、師の次第によって成長に差がつく。三喜には平之進の學問の修得の程度が

判っている。だから、なるべく初心の導きの上手な先生がよい、と考えたのである。

「おおそうじゃ。よい師がみつかった」

三喜は破顔一笑した。

「有難うございます」

平之進は膝に両掌を置き深く頭を下げた。

「まだ礼は早い、果して先方が承諾してくれるかどうか、わからん」

そして、

「おられるかどうかもわからんが、とにかくお訪ねし、お願いして

みよう」

と言いつて、先に立って社内の私住居のほうに向って歩きだし、ふと振り返って、

「おぬしの師は、堤信幸どのにお願い致すことにした」

「堤、信幸さまと仰有いますと、当社のおん宮司様——」

「左様、儂の義兄になる。齡は儂よりお若いがお人柄といい、學問の深さといい、申しぶんのないお方。ご承知下されば、おぬしは生涯のよき師を得たことになる」

三喜は心うきたつほどに歩にも力をこめ、奥へ向う。

(つづく)



平成二十年度  
「一の宮巡拝会」全国交流会のご案内

会員の皆様方にはますますご健勝で活躍のことと存じます。さて、標記のように年に一度の全国交流会を開催いたします。今回は和歌山県の日前神宮・國懸神宮、伊太祁曾神社、丹生都比売神社、そして高野山をお参りするコースです。

日時 平成二十年四月二十六日(土)～二十七日(日)  
集合 JR和歌山駅東口 十二時十五分 ※昼食は済ませてご参加ください。

第一日目 紀伊の国一の宮 日前神宮・國懸神宮

紀伊の国一の宮 伊太祁曾神社(全国交流会開催地)

高野山蓮花院・弥勒院

第二日目 紀伊の国一の宮 丹生都比売神社

宿泊 高野山蓮花院・弥勒院 宿坊

会費 ①泊一食全行程 一万三千元 ②一日のみ参加 五千元

お申し込み

締切後ですが参加希望者は下記本部事務局へお問い合わせください。

本の紹介

比企理恵の神社でヒーリング

実業之日本社 一、三〇〇円 著者/比企理恵  
神社を「人生をリセットしてくれる癒しの場所」だと位置づけ、幸せの入口としてヒーリングを始めたきっかけや、比企さんの感性と体得から神社参拝のすすめを語っています。また、『おすすめ癒しの神社』として71社を比企さん流に紹介。(塩)

絵馬に願いを 二玄社 一、六〇〇円 著者/岩井宏實

子育てから秘め事までを絵馬にたくして。女性のやさしさを感じさせるデザインの装丁で、絵馬の歴史から『諸願成就御利益満載』の解説とめずらしい絵馬の図柄をカラーで見ることが出来ます。絵馬の素晴らしさを再認識させられた二冊。(塩)

新・御朱印帳完成

好評の出雲千年和紙(斐伊川和紙)一万五千元のご朱印帳につき、第三版として四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙を使用して新規に普及版を製作いたしました。出雲和紙同様、軽くて携帯に便利(二五〇g)、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。定価七千円(送料別)

\*一の宮神社以外の御神印をいただくために、本文全て白紙版、和紙(B5判・軽量)の御朱印帳。定価六千円(送料別)

ご購入希望者は東京事務局まで



右(青)/四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙の普及版 定価7,000円(送料別)  
左(白茶)/B5判和紙本文全て白紙版 定価6,000円(送料別)

平成二十年度 会費納入のお願い

巡拝会の年度は、ご入会された月日ではありません。毎年一月が更新月となっています。本年度の更新が未だの方は同封の振込用紙にて更新してくださいませようお願いします。会報・巡拝のすすめ・参考資料の発行等、会運営の原費となりますのでご協力ください。

第二十七回 諸国一の宮めぐり

朝日旅行 | 越後・佐渡 |

出発日 二〇〇八年五月二十日(水)泊二日  
旅行代金 おひとり様七千七百元/一二人室  
食事朝・昼・夕二付き

集合 JR大阪駅七時二十分集合(予定)  
JR京都駅乗車八時十二分発(予定)

コース

- ① 大阪(七時四十分)直江津→居多神社(越後国の宮)
- ↓彌彦神社(越後国の宮)→新潟→ホテル日航新潟泊
- ② 新潟港→両津港→度津神社(佐渡国の宮)→トキの森公園など→両津港→新潟港→新潟空港→伊丹空港(十八時五十分)

〈同行案内人〉 生谷陽之助氏/一の宮巡拝会顧問

コースのお申し込み  
お問い合わせ

06-6345-1233(大阪)  
078-391-0951(神戸)  
075-323-1455(京都)  
受付時間 九時三十分～十七時三十分  
土・日・祝日は休ませて頂きます。

旅行企画・実施 株式会社朝日旅行

千五三〇一〇〇四  
大阪府大阪市北区堂島浜一丁目二十九古河大阪ビル本館5F

一の宮巡拝会本部事務局 創房関宮(有)内

〒六六六-0111

兵庫県川西市大和東一十三十

電話 〇七二七九一五二五八

FAX 〇七二七九一五二五九

一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内

〒二二一-0055

東京都台東区三筋一十二十二

電話 〇三三五八三三三九〇一

FAX 〇三三三八六五二二三三五

●入会金及び会費について

一般維持会員 年会費 二〇〇〇円

賛助会員 一口三〇〇〇円(何口でも可)

寄付金 お志し

●会費等お振込み先

郵便振替(大阪) 〇〇九九〇一五八二五五

◎全国一の宮巡拝のすすめ・改訂版  
◎全国一の宮参拝参考資料・初版 完成